



【写真1】
(12/14, 石垣島)
パンナ岳公園から石垣市街地と宮良湾を望む。



【写真2】
(12/14, 石垣島)
案内役の琉球大学河名教授の説明を受ける参加者



【写真3】
(12/14, 石垣島)
桃林寺
・八重山は、昔は神仏を崇拝していなかったが、薩摩藩の命により1614年に建立されたが、1771年の明和の大津波（八重山地震津波 M7.4）で跡形もなく流された。
・その後、地元の要請により建立された。



【写真4】
(12/14, 石垣島)
八重山博物館にて勉強会開催



【写真 5】
(12/14, 石垣島)
八重山博物館にて
・得能氏による講演
「古文書で読む明
和津波」



【写真 6】
(12/14, 石垣島)
八重山博物館にて
・得能氏の講演に聞き
入る参加者



【写真 7】
(12/14, 石垣島)
八重山博物館にて
・琉球大河名教授によ
る今回の現地調査
の概要説明を受け
る。



【写真 8】
(12/15, 石垣島)
石垣島大浜の崎原公
園の津波大石（サンゴ
礁岩塊）
・この岩塊は、石垣島の
南東～南側の琉球海溝
で発生した約 2,000 年
前の津波で運ばれたと
推測されている。



【写真 9】
(12/15, 石垣島)
津波大石の前で記念
撮影



【写真 10】
(12/15, 石垣島)
崎原公園の海岸線か
ら、宮良湾内に点在
する岩塊群を望む。
・これまでに来襲した大
津波によって打ち上
げられた岩塊



【写真 11】
(12/15, 石垣島)
崎原海岸に見られる
海食崖



【写真 12】
(12/15, 石垣島)
「とふりあ」の岩塊
・2,000年前の大津波で
黒石御嶽というところ
に打ち上げられたが、
明和の大津波で再度
「とふりあ」と呼ば
れるこの場所に運ば
れた。



【写真 13】
(12/15, 石垣島)
古文書に、大津波によつてここまで遡上したと記されている場所（標高約80m 付近）



【写真 14】
(12/15, 那覇市)
ホテル日航那覇にて勉強会
・琉球大河名教授の講演「明和津波の遡上高・移動岩塊」



【写真 15】
(12/15, 那覇市)
ホテル日航那覇にて勉強会
・沖縄県防災対策監城田氏の講演「沖縄県の津波対策について」



【写真 16】
(12/15, 那覇市)
ホテル日航那覇にて勉強会
・沖縄県防災対策監城田氏の講演に聞き入る参加者



【写真 17】
(12/16, 那覇市)
ホテル日航那覇に
て勉強会
・琉球大非常勤講師
渡辺氏の講演「沖
縄本島の自然災害
リスク」



【写真 18】
(12/16, 糸満市)
荒崎海岸に打ち上
げられたと思われ
る琉球石灰岩「カサ
カンジャー」
・この岩塊は、台風時
の高波浪によって海
岸線付近の海食崖の
一部が剥離して打ち
上げられたものと推
測されている。(標
高約 9 m)



【写真 19】
(12/16, 具志頭村)
具志頭城跡から具
志頭海岸を望む。



【写真 20】
(12/16, 具志頭村)
具志頭海岸に見ら
れる海食崖